

「アートプロジェクト1」 ～グループワークによる学生の主体的な学びと、組織づくりについて～

Art Project 1:

*Independent learning through group work, followed by organizational building activities
for art universities*

横山 豊蘭 YOKOYAMA Houran

(美術領域)

○アートプロジェクト1・アートコレクティブ

2017年、名古屋芸術大学は音楽・美術・デザイン領域が統合し、芸術学部芸術学科としてボダーレスに生まれ変わった。2019年より、当時開講していたデザイン領域の津田佳紀教授による「アートプロジェクト1」と、美術領域の大崎正裕教授と私が洋画コースで開講していた「アートコレクティブ」が「融合」する形で、現在、私が西キャンパスで担当する「アートプロジェクト1」が始まった。具体的には、テーマに沿ったメディアの特性や、それを支えるテクノロジーのしくみを理解し、それらを用いた動画、音声等によるコンテンツの企画、制作をおこなう。加えて身体、インタラクティブといった観客との相互関係についても理解を深める事をめざしている。グループワークによるコンテンツ実制作により、チームによる制作の意義について実体験するアクティブラーニング授業という側面、番組コンテンツ企画・制作の技術、皆で作る喜びとその意義、実現力を鍛える事も目的の1つである。この授業が名古屋芸術大学(2024年現在、2学部5領域40コース)の領域を超えた横断科目である事によって、音楽領域、舞台芸術領域、美術領域、デザイン領域、芸術教養領域の様々な専門性を持った学生が一堂に会す。そういった場、状況で、学生が学び語り合う学際的研究(このアートプロジェクト1の場合の構想は令和2年(2020年)3月発行の名古屋芸術大学研究紀要、第41巻「書道アートをめぐって(その7)横山豊蘭“Trans-disciplinary”を参照。)を考え方のベースとしている。

○チーム分け

この授業では、最終的に動画もしくは音声による番組コンテンツを制作する為、必然的にチームごとのスキルの配分(出演、脚本、演出、編集、撮影技術など)が必要になってくる。チーム分けの方法そのもののアイディアも学生自身に問いかけるが、具体的にはGoogle classroomの機能を使い、事前にアンケートをとり、それぞれ学生自身が所属する領域、コースのみならず、専門分野、技術面での自身の得意分野、これを機会に身につけたいスキルなども調査する。また番組制作の内容に関わる為、気質の自己評価、趣味趣向、現在興味のあるテーマなども対話によって引き出しながら進めている。(実はチーム分けが最も難しい課題の1つだが、これに関しては紙面の都合で次の機会に検証したい。)

○評価

「評価」に関しては、もちろんチーム力としての成果物(番組コンテンツの完成度、達成度)は評価する。最終的には、お互いの番組を視聴し学生自身が投票もおこなう。しかし番組の面白さや、完成度だけでは評価しない。また、個人のスキル自体は評価するがスキルのみを評価しない。個人のスキルによって成し遂げる作品の成果ではなく、その過程、チームの総合力として評価する。チーム力によって個人のスキルをどれだけ超えられたか、どれだけ「個を超えるか」が「評価」の中心である。その生徒の積極性、主体的な学びの姿勢、トライするチャレンジ性、他者への思いやり、それは逆算的に将来への可能性を映し出す為「期待度」という評価も加えたい。また、チームの仲間への配慮、その場(授業)でしか会わないかもしれない相手への接し方、誠意的な話し方と思考法、これはコミュニケーション能力(知識、技法)という「テクニック」の有無ではなく、元々性格が明るいなどの「気質」でもない。思考法は「知識」や「気質」ではなく、実践による学習によって学ぶ事が可能である。この授業内でも、特別なスキルはないが、その学生がいるとチームに活気が生まれるという場面がある。近年では

「ファシリテーション」として理解されるが、この授業内ではファシリテーションについても紹介し、ファシリテーター育成の場、自分の役割を理解し、意識的にチームに参加できる学生の育成も視野に入りたいと考えている。

○「卒展ラジオ放送ア”ーッ！ラジオ」

また、このアートプロジェクト1の受講生と、放送活動に賛同する学生有志が主体となり、卒展ラジオ放送ア”ーッ！ラジオを展開している。2009年に洋画コース大崎正裕教授と当時学生だった清水 梓の発案で始まった「ア”ーッ！ラジオ」（音声のみのラジオ電波放送）は2019年に10周年を迎えていた。並行して、名古屋芸術大学副学長である津田佳紀教授も、これまで学内外でラジオ活動をおこなってきた事から、ラジオ活動に対するご理解、意義を共有できた※注1。また領域が融合する事で、放送技術面においてもフェーズが変わり、様々な問題が解決され、より理想に近い形で学際的に事業を進める事が可能となった。2021年より津田佳紀教授がプロデューサーとなった際、ご厚意で「ア”ーッ！ラジオ」の名称を引き継ぎ、2024年で15周年を迎えるラジオ活動となった。（現在、ラジオ音声番組だけではなく動画番組も放送しているが、名称が「ラジオ」であるのはそういった経緯がある。）

注※1) 1987年下北沢ラジオホームランに参加、2009年 シンポジウム&ストリーミング放送「自由ラジオの時代へ1984～2009」会場 HomeRun Factory（東京都）（ストリーミングによる同時中継）

卒展ラジオ放送ア”ーッ！ラジオは、卒業制作展期間中に期間限定で開催される名古屋芸術大学卒業制作展運営委員会主催のWeb配信事業である。授業外でおこなわれるア”ーッ！ラジオは、学生主体で企画・運営、スタジオのセッティング、学生有志チームア”ーッ！ラジオによる特別番組の企画、収録、放送、ライブストリーミング配信などの放送全般から特設Webサイトの構築などもおこなう。また今後は、特設Webサイトを活用し年間を通じた活動によって様々な交流基盤となるプラットフォームが構築されていく事が期待される。この配信プロジェクトは授業期間外ではあるが、授業内でラジオ活動への関心を高めた学生や、授業外からの受講生も多く参加している。これまでライブ配信のみならず、ライブペインティングやワークショップなどもおこなってきた。2020年にはチームアジャラによる番組「みんなでつろう！名芸から見える空」のワークショップとライブトークを、大学内の食堂から中継で放送した。2022年には、ラジオ活動で番組企画、制作、テキスト編集、出演、演出等で活躍した宮里明佳（文芸・ライティングコース2023年卒）によってサークルも立ち上がり、彼は「総合メディア同好会」部長となった。同好会は2023年にサークル化され、部長となった前田翔勇（先端メディア表現コース3年生）がア”ーッ！ラジオ学生チームリーダーを務めた。高校時代、演劇部に所属し照明を担当していた山形篤輝、放送部でアナウンスを担当していた木下朋香や、ライブ配信には高橋美優が参加するなど、トーク、放送技術、内容共に充実したものとなった。また現在も、卒業生の橋本詔矢、宮里明佳、瀬古亮河など多くの学生が番組出演や制作に協力している。2019、2020、2023年とメインビジュアルでモデルを務めた卒業生の田尾 玲（旧姓 田畑、洋画コース2021年卒）は在学中、ラジオ活動で積極的に活躍し様々なワークショップやライブペインティングなども企画した（2020年、チームパラレルライン）。現在は地元の三重県いなべ市で、アート、ミュージック、パフォーマンス、展覧会など、様々なクリエイションを身近に体感できるスペース、岩田商店の副店長として、地域住民と触れ合うイベント企画など、地元いなべの魅力を発信し続けている。2020年に前園彩歌（洋画コース2021年卒）と、特別ゲストT橋N子によって始まった映画を語る番組「名芸地下映画倶楽部」は2024年現在、5年目となる長寿番組となっている。2024年のチラシメインビジュアルでは書道アート部の協力も得た。部長、加古寅起（ビジュアルデザインコース）井田蘭乃、松岡里奈（共に洋画コース）の協力によって、外山晨詩（コミュニケーションアートコース）の書道パフォーマンスが撮影された。外山は障害をもつ学生だが、サークル、社会においては場を和ませる「キャラクター」としての役割をもつ事がある。

この活動で大切なのは、授業としてのアクティブラーニングで時として問題になる「やらされている」感ではなく、かといって学園祭の様なサークルの「ノリ」だけににならない事だ。おたがいが「学びの場」であるという認識を共有し、状況が下支えしている。私の役割は、通常

一般の番組制作マネジメントだけではなく、そういった大学という場と状況（繋げつつ切り分ける）、学生の学びの段階、心身の健康状態、モチベーションの変化を把握することも含めて、全体を配慮しながら運営する事だろうと考えている。

2020年日時|2月23日(日)12:00~13:00 みんなでつくろう!名芸から見える空

◇チームアジャラ▽食堂にてモザイクアートをつくる ▽広告や雑誌などの紙を用いて名芸から見える空をモザイクアートで表現。たくさんの人の参加によって完成する 巨大モザイクアート。果たしてそれは完成するのか?! インタビューやお便り企画を交えてお送りします!

パーソナリティ:緒方ひより/神野ひかる/谷口舞桜/中世古快/原加奈子/武藤あやみ/ 森野笑/吉野英恵

2020年日時|3月1日(日)13:00~15:00 総まとめ

◇アートコレクティブ、チームパラレルライン▽カラー大好き DJ サリーがお送りする、チームパラレルライン総まとめ◇ラジオ!3日間に渡って開催したアートコレクティブ系 アートイベント、着物イベント!現場の生の雰囲気、インタビュー他、現場の生の雰囲気 を、ゲストとのトークを交えながらお送りします。ぜひお聴きください!

パーソナリティ:D J サリー ※(放送期間中後半、コロナ禍に入り一部のイベントは中止されました。)

○「メディアの特性」動画番組・ラジオ番組

それまでの「アートコレクティブ」授業では、主にラジオ（音声によるコンテンツ制作）に特化していたが、その理由はラジオという文化の特性と歴史を学ぶ事も大切であり、音声のみというラジオメディアの特性も重要だった。実際、洋画コースの学生自身や特別ゲストの中には、顔出し出演を躊躇する方も多く、絵画コース独特の「気質」などもある。またラジオ（音声のみ）の方が「気軽に話せる」事により、より深いテーマを扱う事もできるという側面もある。このアートプロジェクトも、Web 動画やラジオコンテンツ制作が単なる広告メディアとして機能（視聴率）だけではなく、学生同士や出演者の「心からの対話」という教育的側面も踏まえている事は言うまでもない。かつて、マーシャル・マクルーハンは「メディア論」（1964）の中でラジオを「部族の太鼓」と表現した。聴く側もテレビと違い、音声のみというラジオの特徴がある。車のカーラジオ、仕事場でのBGMがわりなど、「ながら」の状況、視聴者自身がイメージーションを広げる事ができる。また、ラジオ発祥の時代と同様、自然災害が頻発する現在、地域に密着するラジオメディアの特異性と活用性も顕著である。近年、携帯スマホアプリ「radiko」などのラジオに特化したアプリケーションもあり、雑誌の特集など※注2ラジオそのものの再評価もすすむ。2019年以降のコロナ禍の中、ネットを介した非接触系メディアが目目された事など社会状況的要因もその後押しとなり、インターネットを介したWeb 動画配信に舵を切るきっかけとなった。それにより現在は、動画、音声、両方の番組コンテンツを制作している。アートプロジェクト1で制作するコンテンツが実際に卒業期間中に特設Web サイトから放送される事も、授業内でのコンテンツ制作に程よい緊張感をあたえ、番組の品質や社会性、モチベーションを高める効果があると考えている。

注※2) ※BRUTUS No. 657 マガジンハウス、ラジオ特集「なにしろラジオ好きなもので。」2009年、3/15号「なにしろラジオ好きなもので。」②) 2014年、No. 934「なにしろラジオ好きなもので。」③) 2021年など。

○人とのつながり。セクショナリズムを超えて

グループワーク授業での学生同士の対話はもちろんだが、2019年以降のアー ーッ! ラジオ活動は、卒業期間中に学内でライブ配信も行われる事もあり、トークライブなどの活発な対話によって、在学生と卒業生との繋がりを深める事も目的としている。また、専門性を持った特別ゲストを招聘するなど、外部の専門家との繋がりや、地元への取材、インタビューなど、地域社会との繋がりを深める事もおこなっている。また、大学内プロジェクトとして、タテ割りになりがちな学内組織において、番組制作における学内教員の横の連携、ヨコ軸の組織づくりも意識される。タテ割りとセクショナリズムになりがちな大学組織に、ヨコ軸の関係性を加える事は、組織運営にとって大きな課題の1つであるだろう。無関心、非協力的、あるいは批判型、排他型セクショナリズム、あるいは、時にはセクション内セクショナリズムが発生しやすい大学組織にとって、領域を超えた学際的研究活動の困難さにおいても同様である。専門性を担保しながら、いかに協働できるかが重要課題であるが、様々な学際的研究の事例を鑑みれば、早急な改革には耐えられない構造がある。学生と違い、複雑な心理環境を伴った大学組織の特性もある。しかし、同じ「芸術」に関わる人間の「気質」とその関係性という意味での構造は同

じ部分も多く、こういったプロジェクトの研究は、今後の組織作りのあり方に実体験が伴い、参考になる部分も多いのではないかと考えている。1967年の中根千枝氏の著書「タテ社会の人間関係 単一社会の理論」（講談社）でも言われてきたように「論理よりも、感情が優先し、真の『対話』がありえない社会」において、論理より「感情」によって物事が進められる場合がある独特の構造は現在も変わっていない。しかし、中根千枝氏も強調している様に、これは「日本人の特質」ではない。そういった単一社会の構造を意識する事から1つずつ進めなければ、真の構造改革などではできないだろう。2019年～23年まで、西村和泉教授による文芸・ライティングコース、サウンドメディアコンポジションコース、声優アクティングコース共同制作の「名芸ラジオドラマ」が好評を博した。そこから交流が始まり、現在は毎年恒例となった声優アクティングコースの学生によるオープニングアクトを放送している（写真7）。2020年にはスペースデザインコース、駒井卓治教授の協力により特設トレーラーハウスを製作、屋外スタジオからの放送をおこなった（写真4）。

名古屋芸術大学 東キャンパスで毎年開催され、好評を博している サウンドメディア・コンポジションコース企画・制作・主催の作品発表コンサートイベント「KALEIDOSCOPE」の報告、レポート番組も放送しつつ、ライブストーリーミングの見学会など、長江和哉教授の協力による技術的交流も深めている。その他、様々な領域、コースの教員の皆様のご協力によりア”ーッ！ラジオ活動は広がっている。

○大学内における組織の閉塞感を打破する事に貢献する、様々な効果

授業内の「評価」にとどまらず、実際に地域社会との繋がり、学外とのつながり方、学生同士や先輩後輩との繋がり、それによる実際的な「効果」として、5年後、10年後に現れてくるものと言える。実際に私自身、東京と静岡を拠点として作家活動を行っていた2010年当時、2代目ラジオ活動の室長（リーダー）であった学生の杉浦光によってア”ーッ！ラジオに特別ゲスト出演で呼んで頂いた事がきっかけとなり、現在に至るまで、母校である名古屋芸術大学とラジオ活動に深く関わる事になったのだ。

名古屋芸術大学を卒業した学生達が実際の世の中で、その繋がる様々な方法や技術によって、アーティスト、表現者、生活者としてサヴァイブしていく事。そして、それに関わる方々の生活を豊かにし、社会に貢献する事が「目的」であり「効果」であると言えるのかもしれない。それは名古屋芸術大学のみならず「芸術」の意義、芸術大学そのものの社会的評価にもつながるのではないかと私は考えている。

○アートプロジェクト1 特別ゲスト授業

特別ゲスト講師 山本高之（アーティスト）

・開催日時 2019年11月6日（水）

・講義時間 16時30分～18時

・会場 名古屋芸術大学西キャンパス G棟2階207教室（愛知県北名古屋市徳重西沼65）

領域横断的な活動を展開する、アーティストの山本高之氏を特別講師としてお迎えし、特別講義をおこなった。自身の小学校教員の経験をもとに「子どもの会話や遊びに潜在する創造的な感性を通じて、普段は意識することのない制度や慣習の特殊性や個人と社会の関係性を炙り出す」近年は地域コミュニティと協働して実施するプロジェクトや、一般を対象としたオルタナティブなアートスクール・プログラムにも取り組んでいる。

特別ゲスト講師 東地和生（アニメーション美術監督、1995年、名古屋芸術大学絵画科洋画コース卒業）

・開催日時 2024年11月13日（水）

名古屋芸術大学洋画科卒業後、アニメーションの背景会社に入社。『攻殻機動隊 STAND ALONE COMPLEX』（2002）、『パプリカ』（2006）などの美術監督補佐を経て、現在はフリーランスの美術監督として活躍。代表作は『AngelBeats!』（2010）、『花咲くいろは』（2011）、『TARI TARI』（2012）、『風のあすから』（2013）『Charlotte』（2015）等、数多くのP.A.WORKS作品の美術背景を手掛け、2024年、MAPPA初のオリジナル劇場作品『アリスとテレスのまぼろし工場』美術監督。懐かしさを感じる街並み、印象的な海や空、物語を感じさせる情緒豊かな描写でアニメーションの世界観を作り上げている。

○卒業ラジオ放送ア”ーッ！ラジオ特別番組ゲスト

丸山ゴンザレス（ジャーナリスト）

佐藤健寿 (フォトグラファー)
片桐邦雄 (漁師、猟師、料理人)
和氣 正幸 (本屋ライター、BOOKSHOP LOVER 店主)
天野陽史 (古本いるふ店主、2009年 名古屋芸術大学大学院デザイン研究科ライフスタイルデザイン専攻 卒業)
村岡ケンイチ (似顔絵セラピスト、2004年 名古屋芸術大学イラストレーション科卒業)
東地和生 (アニメーション美術監督、1995年、名古屋芸術大学絵画科洋画コース卒業)
古賀学 (アーティスト、映像作家、VJ)
西尾雄太 (漫画家)

○番組ゲスト

今村有策 (東京芸術大学教授、2018年度名古屋芸術大学特別客員教授)
家村佳代子 (takibil/Institute of Arts and Colcure)
荒木裕子 (名古屋大学減災連携研究センター特任准教授)
石鍋博子 (ワンピース倶楽部代表)
山本真寿美 (名古屋ワンピース倶楽部支部長)
服部浩之 (キュレーター/秋田公立美術大学准教授)
飯田志保子 (キュレーター)
水野里奈 (アーティスト、2012年名古屋芸術大学洋画2コース 卒業)
東大地 (「COLORS」監督、ACEATION、2020年アートクリエイターコース卒業)
中村大樹 (「COLORS」脚本、ACEATION、2020年、アートクリエイターコース卒業)
上野秀晃 (角川書店編集者)
山崎貴之 (角川書店編集者)
増田俊也 (文芸・ライティングコース客員教授)

番組「教えて先輩!!」卒業生ゲスト

小田智之 (2021年、サウンドメディア・コンポジションコース卒業) メールインタビュー
田畑 玲 (2021年、卒業洋画コース卒業)
伊藤桃香 (2022年、アートクリエイターコース卒業)

オープニングアクト (声優アクティングコース)

増田 迅、坪田美紅、杉山 慶、立石涼音

卒展ラジオ放送ア" ーッ! ラジオ2019~

プロデューサー 津田佳紀 (2021~)
チーフディレクター/アートプロジェクト1担当、題字書 横山豊蘭 (2021~)

大崎正裕 (ア" ーッ! ラジオ発起人、洋画アートコレクティブ、[仮設] - 構想領域研究室、統括~2020)
山口 諒 (洋画助手、卒展ラジオ放送ア" ーッ! ラジオ、アシスタントディレクター~2020)

清水 梓 (2019 番組特別ゲスト、2009年 洋画ア" ーッ! ラジオ発案者)
杉浦 光 (2019 番組特別ゲスト、洋画ア" ーッ! ラジオ2代目室長、洋画助手)

ゲストアドバイザー

バグース長谷川 (ゲストアドバイザー、FM Haro!、K-Mix、ラジオDJ)
佐々木伸介 (ゲスト講師、FM Haro!、ラジオプロデューサー、ワイアード有限公司)

協力

萩原 周 (名古屋芸術大学卒業制作展運営委員長/芸術学部長)
水内智英 (芸術学部芸術学科デザイン領域、A&D センター長 ~ 2022)

協力コース・教員

サウンドメディア・コンポジションコース 長江和哉
声優アクティングコース 平光琢也
文芸・ライティングコース 西村和泉、村田 仁、高畑早希、原田礼帆。
コミュニケーションアートコース 岡川卓詩
洋画コース 加藤恵
ビジュアルデザインコース 片山 浩
スペースデザインコース、駒井卓治
ミュージカルコース

長谷川 匠 (ポスター・チラシデザイン)

田畑 玲 (モデル、2019、2020、2023。番組「教えて先輩!!」特別ゲスト)
浦田貴秀 (フォトグラファー、2023 メインビジュアル) 撮影協力、つむじ着付け教室 内村圭子。
外山農詩 (書道パフォーマンス 2024)

名古屋芸術大学 Art & Design Center（磯部絢子、市川岳志、山本真弥圭）
旧加藤邸住宅、六華園、書道美術研究所。




名古屋芸術大学
 NAGOYA UNIVERSITY
 OF THE ARTS
2018年度中期・終了展覧会企画「アーツ!ラジオ」

アーツ!ラジオの聴き方 HOW TO LISTEN.
 会場である名古屋芸術大学アート&デザインセンターにて聞けます。
 もしくは、WEBサイトにて聴くことも可能です。

Q「アーツ!ラジオ」名芸 2019
<http://aaartsradio2019.creatorlink.net/>



写真 1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6



Web サイト QR コード

名古屋芸術大学卒業ラジオ放送「アーツ! ラジオ」

アーツ! ラジオは、2024年で15年目を迎えたラジオプロジェクトです。2021年より動画配信も加わり、名古屋芸術大学の卒業生や学生が制作する作品やプロジェクトを紹介し、アートに関するさまざまなトピックに焦点を当てた番組コンテンツを制作しています。毎年1度、2月におこなわれる卒業制作中には、学内に仮設スタジオを設置し、収録番組の配信や、特別番組のライブ配信もおこなってきました。学生主体による番組企画、制作によって、目で協力して制作する喜びを体験し、また、アートの力を通じて社会に貢献することや、在校生と卒業生をつなぐ、多様な番組コンテンツによって視聴者層に情報やインスピレーションを提供してきました。特設ウェブサイトでは、過去の放送のアーカイブや特集記事、アーティストインタビューなどのコンテンツも提供しています。また、アーティストのプロフィールや作品紹介、イベント情報なども掲載されており、名古屋芸術大学のアートコミュニティを支援する情報源となっています。アーツ! ラジオは、アート、デザイン、音楽の可能性を探求し、新たな才能を発見、アートを通じて社会を豊かにする事を目指しています。是非、私たちのウェブサイトを訪れ、名古屋芸術大学の魅力に感じてみてください。

特設 Web サイト 名古屋芸術大学卒業ラジオ放送「アーツ! ラジオ」 <https://www.aarttradio.com/> (各 Web サイト QR コードより)

2024 年の放送の様子

「2024 年」アーティストやデザイナーのキャリア形成やアートビジネスに焦点を当てたコンテンツを提供しました。卒業生の活躍を紹介し、新入生や、特別ゲストによるライブトーク番組を配信、キャリア構築に役立つ情報を提供しました。またラジオチームによる企画番組では、熱の入った芸術トークが展開され、ライブ配信されました。



チーム「アーツ! ラジオ」企画番組トークライブ配信「ぶっしラジオ」



配信機材Roland HD VIDEO SWITCHER V-60HD



オープニングアクト、声優アクティングコース卒業生(ライブ配信)

卒業生ゲスト番組「おしえて先輩!」トークライブ配信

繋がる活動ア* ムーラジオ

アートプロジェクト1の受講生チームを中心に、学生主体で番組を企画、制作。また有志、チーム ア* ムーラジオの企画による特別ゲストトークライブの配信や、毎年、名古屋芸術大学 東キャンパスで開催されているサウンドメディアコンポジションコース発表コンサートイベント「カレイドスコープ」紹介番組などの音楽番組も放送。名古屋芸術大学の様々な学科や領域の学生チームによる企画 番組も数多く放送してきました。今後も、学部、学科、領域を超えた学生チームによる番組企画を、広く募集していきます（詳細は番組特設 Web サイトをご覧ください）。昨年より、アートプロジェクト1の受講生有志によって、総合メディアサークルが発足し、ア* ムーラジオと連携しながら活動を開始しました。さらに大学内の様々なサークルとも連携しながら番組を制作しています。在校生、卒業生、人と人、アートと社会を繋げるア* ムーラジオ。今後もア* ムーラジオの活動をよろしくお願いたします！



写真 8

名古屋芸術大学 年間ラジオ放送「アーツ!ラジオ」2025



あなたの夢はなんですか？

アーツ!ラジオとは？

学生が主なり、みんなで協力して制作するBGMKRAを作る。1年を通して16ヶ月を走るラジオプロジェクト。アートや音楽、作家インタビューなど。学生企画による様々な番組を、動画やラジオ形式で配信。名古屋芸術大学の楽しさ、魅力を紹介します！

名前の由来は、アーツ!という叫び声から。気持ちも伝えたいけど伝わらない、でも伝えたい！そんな叫び声と「Art」が共通し、ラジオが通じたいという思い。

2025.2.15(土) - 24(月・祝)
12:00 - 17:00

ライブ配信日(A棟1階スタジオ)
2月15日(土)、16日(日)/22日(土)23日(日)24日(月・祝)

収録番組(Webサイトのみ)
2月17日(月)、18日(火)、19日(水)、20日(木)、21日(金)

アーツ!ラジオの聴き方

本拠会場である、名古屋芸術大学西キャンパス(A棟1階入口)に設置されるラジオブースや、会場受付スピーカーまたはアーツ!ラジオWebサイトよりご覧いただけます。詳細は特設Webサイトをご覧ください。

🔍 検索 「アーツ!ラジオ」 名芸 2025

アーツ!ラジオ2025ウェブサイトURL <https://aanartsradio.com/>



写真 10
メインビジュアル 東地和生 (アニメーション美術監督、背景画家) /
題字書 横山豊蘭 (アートディレクション、アーツ!ラジオチーフディレクター)